

## 平成20年度3年生皮膚科伊藤担当分試験問題

. 悪性黒色腫の視診診断として重要なABCDを日本語で解説しなさい。

- A:
- B:
- C:
- D:

. 植皮について( )に適切な言葉を入れなさい。

1つは全層植皮で、皮膚を採取した部分は( )する。この植皮法には( )という長所がある。もう1つの方法は分層植皮で、( )やカミソリを用いて採皮するが、この短所は色素沈着や拘縮し易いことであるが、長所は( )しやすいことである。しかし( )の部分には植皮は生着しないため( )などで再建する。

. うっ滞性皮膚炎・潰瘍について( )に適切な言葉を入れなさい。

この原因は1次性と2次性の( )が主なものであるが、1次性では( )や( )などの手術治療がある。2次性の主な原因には( )があり、1次性・2次性ともに共通する重要な治療法として( )がある。

. 各文章を読み( )内にその疾患名か、設問の答えを書きなさい。またその疾患を別紙カラー写真から臨床写真(A~J)と組織標本写真(1~13)を選んで[ ]に記入しなさい。(臨床写真と組織写真は同一の患者さんのものではありません) ...まず写真プリントに診断名を書いておくと回答が早い。

1. 転移しやすく、悪性度の高い腫瘍で、皮膚、粘膜、眼のほか稀に脳軟膜に生じる。この腫瘍の診断のための検査では、( )は、禁忌とすべきである。日本人では発生部位として( )が比較的多い。最近では、ダーモスコープでの診断が有用とされており、その写真は[ ]である。この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。

2. この腫瘍は、良性腫瘍に分類されている。顔面に好発することが多く、2~3ヶ月で自然に消褪することもあるが、時に非常に拡大するものがあり、その場合は手術適応である。この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。

3. 初期は白癬や湿疹と誤診される皮疹で、後に湿潤、びらん性局面を呈する。進行すると局面内に( )がみられるようになる。この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。

4. 原因不明だが、紫外線、慢性刺激、ウイルス、とくに医療者では( )が関与し、腫瘍・潰瘍を生じる。進行すると悪臭を伴う。( )への転移もしばしば見られ、さらに肝、肺、骨などへの遠隔転移が生じる。この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。

5. 幼少児に生じた巨大なこの腫瘍では、稀に腫瘍内出血により血小板が消費され( )を起こすカサバツハメリット症候群を併発することがある。自然消褪するが( )を残すこともある。この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。

6. 誰にでもあるこの母斑は、時として悪性黒色腫との鑑別診断が必要となる。最近ではダーモスコープによる診断が有用であり、その写真は[ ]である。手掌・足底では、ダーモスコープ所見で、( )に色素をみることが多い。この母斑は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。

7. この母斑は、かつて成長期を過ぎる頃に、二次性腫瘍として( )が高率に発生すると言われていたが、最近では、必ずしも悪性腫瘍が多いのではないとされている。この母斑は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。